

## 2 育てるカウンセリングを生かした対話のある授業の実例

### 「やぶいたかみがだいへんしん -かたちからうまれたよ-」(第1学年)

#### (1) 「思考力」とその育成に向かう対話

##### 【単元で育成したい「思考力」】

自由に破いた一枚の紙の形を、違う方向から見たり、見る方向を変えながら全体・部分から見たりして感じたことを基に、表したいもののアイデアを広げる力

##### 【「思考力」の育成に向かう対話】<拡散型>

選んだ一枚の紙の向きを変えながら、形をものの全体や一部分として見立てた自分の見方を伝え合う。

本単元は、いろいろな材質や色の紙を子どもたちが自由に破り、破いた紙の形や色から感じたことを基に、アイデアを広げ、表したいことを見つけていくものである。本実践では、紙の形から見立て遊びを行い、発想していくようにした。それは、発想する際に観点を形に絞ることで、子どもたちが形のおもしろさをより感じられると考えたからである。絵に表していく際には、他の観点も加えて製作していくようにした。子どもたちは、破いてできた紙の形をいろいろな方向から見立て遊びを行う中で、見る方向が変わると形の見え方が変わることに気付いた。また、「帽子だよ。」「宇宙船に見えるよ。」等と形をものの全体として見るだけでなく、「恐竜の頭だよ。」「人の口に見えるよ。」等とものの一部分として見ると、形のおもしろさを感じることができ、アイデアをさらに広げられるようになった。

本「思考力」の育成に向けて、上記対話を行った。一つの共通の形を基に、別の見方をしている友達と拡散型の対話をするすることで、友達の見方を知り、互いにアイデアを広げていくことができるのである。自分はこう見立てたが、友達はどう見立てたか知りたいという興味・関心のもと、一つの形について見る方向を変えながら何の形に見えたかを伝え合った。さらに、形をものの全体として見たり、ものの一部分として見たりして、どこからそう感じたか等、自分の見方を伝え合った。このような対話を通して子どもたちは、一つのものに対してさまざまな見方ができるようになり、アイデアをもっと広げられると考えた。

#### (2) 対話への支援

##### ① 多様な考えが表出される教材

～複数の表現が可能な教材を使用し、考えを明確にする～

実態：破いた紙等の形から見立て遊びを行う際には、形をものの全体として見て、魚やキツネ等さまざまなものに見立てようとするが、恐竜の牙やサメのひれ等のように、形をものの一部分として見る見方があることには気付きにくいことが想定された。

支援：山にも鼻にも見える教材を使って見立て遊びを行った。また、丸くて大きめの透明シートを使い、シートに選んだ形を挟んで見立てる場を設定した。

##### ② 育てるカウンセリングを生かした支援

###### ア 本単元内で直接行う支援

実態：本学級の子どもたちの多くは、話を聴くときのルールが身につけてきていた。しかし、自分の話を一番に聴いて欲しいという欲求の強い子どもも数名いた。特に欲求の強い

A児が勝手に発言を始めると他の数名の子どもも後に続いて発言することがあった。

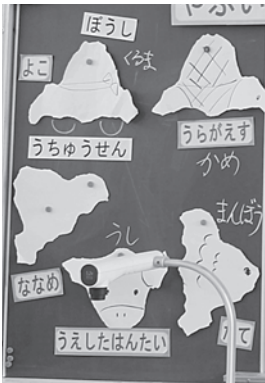

支援：A児が友達の話の聴けている場面を取り上げ、称賛の言葉\*1をかけた。A児への支援によって、学級全体の聴く雰囲気をつくった（対話の雰囲気）。

### イ 本単元外での活動を想起・活用させる支援

実態：Q-Uによると本学級には、自分の考えを堂々と発表できる子どもと、発表が苦手と感じたり、考えに自信がもてず簡単な質問でも挙手できなかつたりする子どもが9名いることが分かった。詳しく聞き取ると、「友達に何か言うのは恥ずかしい。」「聴いてくれていると分かったら発表できる。」等の理由が明らかになった。

支援：「どんなふう聴いてくれたら、話がしやすく嬉しいかな。」と投げかけ、子どもたちが考えた「うれしい聴き方」\*2を示した（対話の雰囲気・技能）。

### (3) 本実践における授業の実際

場面	授業づくり	実践の詳細
学習課題の設定		<p>前時に、紙を破るという活動を通して、紙を不定形に破っていく楽しさを味わいながら、破いて偶然できた形が何かのものの形に見えてくることにも気付いてきていた。さらに、見る方向を変えて何かに変身させてみたいという意欲を高め、学習課題へとつないだ。</p>
多様な考えの表出	<p>山にも鼻にも見える教材を示し、見立てたものを次々と発言させる中で、形をものの全体として見るだけでなく、ものの一部分として見る見方に気付かせていった（教材）。</p>  <p>【ものの全体と捉えた見立て】</p>  <p>【ものの一部分と捉えた見方を示す】</p> <p>教材を丸いシートにすることで、上下左右にこだわらず、回しながら見立てられるようにした。また</p>	<p>破いてできた形を変身させよう</p> <p>回したり、裏返したりして見る方向を変えながら、帽子やUFO等思いつくままにアイデアを出していったが、形をものの一部分として見る見方は出にくかった。そこで、教師が教材を人間の鼻に見立てて、周りに目や口を描き込む見方を示すと、部分の見方に気付いていった。</p> <p>T：では、こんなのだう。（作例を人の鼻に見立て、周りに目などを付け足して提示。）</p> <p>C：鼻に見えます。（ほぼ全員）</p> <p>C1：外に絵をかいたら、違うものができます。</p> <p>T：形の向きを変えたり、大きく見たり小さく見たりできるね。これで変身できそうかな。</p> <p>こうして、子どもたちは自分の選んだ紙の形が何に見えるかを多様に考えていった。</p> <p>自分の選んだ形を丸い透明シートに挟んで、回したり裏返したりしながら見立てていった。ホワイトボードマーカーを使い、描いたり消したりし</p>

「\*」…101-102頁参照

透明シートなので、裏表関係なく見立てられるようにした。シートの余白を大きくし、形をものの全体として見るだけでなく、もの的一部分として見る見方ができるようにした（教材）。

ながらアイデアを出していた。



【形をものの全体と見る】



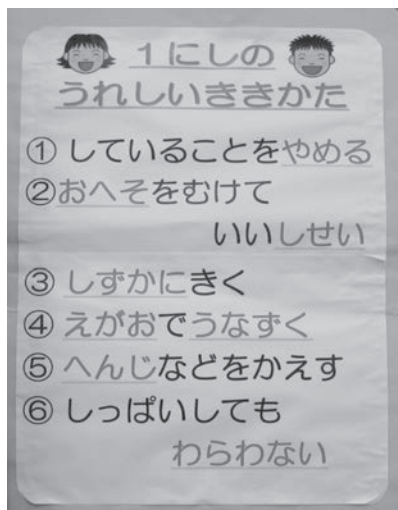
【形をもの的一部分と見る】

ペア対話

選んだ形について、ペアの友達と伝え合う場をもった。

その際、下図を示し、「1西のうれしい聴き方」を意識して聴けるようにした（雰囲気・技能）。

A児の聴き方を称賛し、学級の聴く雰囲気を高めた（雰囲気）。



【1西のうれしい聴き方を想起】

ペア対話の際は、互いにどのようなものに見立てたかや、どの部分や方向からそう感じたか理由を伝え合った。以下は、ペア対話での様子である。

C2: 私は、（とがったところを指しながら）ここがひれだから魚に見えました。（ものの全体として見る見方をしている）

A: 分かりました。

T: Aさんは聴き方がとても上手で素敵だね。やっぱりね。Aさんはできる人だと思っているよ。

A: 僕は、C2さんの形は（形を回して）ここがとがっているからチューリップに見えました。下に茎と葉っぱを足しました。それから、（形を裏返して回して）こうすると、C2さんの形は、男の子の顔に見えました。だから顔の下に体を付け足しました。（もの的一部分として見る見方をしている）

C2: ああ、そうか。そういうのもあるね。

A児が聴き方のルールを守っている様子を見つけ、称賛することで学級全体の聴く雰囲気も高まった。ま



【自分のアイデアを説明】

た、「1西のうれしい聴き方」を意識させることで、受容的に話を聴く子どもが増えてきた。

全体対話

教材提示装置でテレビに映しながら発表することで、考えたアイデアが全体に伝わるようにした。

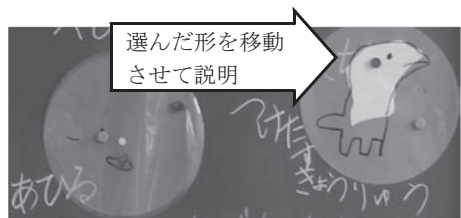
同じ形でも見る人や見方が変わればアイデアが違うこと、形をもの的一部分として見る見方により、アイデアが広げられることを学級全体で共有できた。

C3: これはアヒルです。ここが（指しながら）くちばしに見えたからです。

C4: ぼくは、この形をこうしたら（回す）恐竜の



【テレビに写しながら対話】



【部分の見方で広がったアイデア】

頭みたいに見えました。

T:恐竜の体はどうしたんですか。どういう技(見方)を使ったのかな。

C:絵を付け足しています。(複数の子どもたち)

同じ形でもいろいろな見立てができ、形をもの的一部分として見る見方をするすることで、さらにアイデアを広げていこうとする子どもたちの姿が見られた。

つけたして みたら  
だいへんしんしてびっくりしました。  
まわしてかんがえたらいっばい  
いおもいつくとしりました

【授業後の感想カード】

#### (4) 考察

##### ① 成果

形をもの的一部分として見る見方をするすることで、アイデアを広げることができた。A児への称賛や、朝の活動等で日常的に行っている「1西のうれしい話の聴き方」の積み重ねにより、友達の話を聴こうという意識を高めることができた。

子ども	授業開始時のアイデア	授業の終末でのアイデア
i	・(形をものの全体として見て) 魚、イルカ、山に見えた。	・(形をもの的一部分と見て) クリオネのひれに見えたので、体を付け足した。 ・形をフクロウの頭と片方の翼と見立て、足りないところを付け足して描けた。
ii	・(形をものの全体として見て) ソフトクリーム。	・形をものの全体として見てアザラシに見立てていた。対話の後では、形をもの的一部分と見る見方をし、幹を付け足してリンゴの木にしていた。

上記の子どもにおいては、いずれの子どもも、授業開始時には形をもの的一部分として見る見方はできていなかった。しかし、授業の終末ではその見方ができるようになりアイデアが広がったので、「思考力」の向上が見られたと言える。

##### ② 課題

形をもの的一部分として見る見方を提示した際、その見方に対して意識が向かない子どもや、対話の際に自分の見方を話したいという意欲の高まりが不十分な子どももいたので、子どもたちの「やりたい」「話したい」という意欲を高める工夫をすべきであった。また、丸い透明シートの使い方の定着が不十分だったので、子どもたちの中に戸惑う様子が見られた。透明シートに選んだ形をどのように挟むかは、多様な見方をするための大切なポイントであったが、中心に挟んだために、一部分として見る見方ができなかつた子どももいた。形をもの的一部分として見ている子どものアイデアを全体に取り上げる場を増やし、シートの使い方や、部分の見方が学級全体に広がるようにすべきであった。